

物部

白髪山

高知県には白髪山は二座あり
佐佐木「葦生富士」とも呼ばれる。
中腹より上は美しい笹原の
スロープが広がり、山頂からは
抜群の展望が広がる。
冬季、雪を冠った姿は遠方からも
美しく見える。四国百名山にも数えられる。

美しい三嶺の森を
みんまで守ろう!!

シカの被害は三嶺の森にとり、希り種が失われ、ササ下層植生が
枯れる。樹木が枯れるという植生生態系、生物多様性の被害ははじ
国土保全面や保水力低下、水質悪化という森の力が衰えるに
ことにより深刻な問題を起こしている。
工場の表面を保護している植物や樹木の根がなくなり崩壊や土砂の
流出を防ぐ機能が失われ、落ち葉まで食べられることから腐葉土層の
力が弱り雨水をためて徐々に地下に浸透させ、浄化する機能も
おとろえ、重尿による汚染や、濁水の原因にもなっている。
物部川の源流域とシカの脅威から守らなければならない。

稜線沿いの歩道からの
眺めは絶景



ほろかに見えるほんとうの空
ほろかに続く緑の稜線

急坂

三嶺へ4.5
白髪へ2.0
白髪分岐

一望千里
の大展望

白髪避難小屋

土阿国境稜線

物部川系と部洲川系を
分ける分水嶺

平和丸

(1700.8)
三角点名は菅生

モミ林のタテがシカの
食害によって枯れている

倉山～白髪山間 約五里の山道を開拓したのは
伊勢国出身の守蔵(守佐衛門)といわれて、倉山を
主要信仰していた。明治後期、高瀬の岩屋に
蔵が(1)食や食料を(2)くわしという。(伊勢の岩屋
はこれ)

守蔵が伊勢の岩屋に立るといって刻んだ石像の
不動尊が、今も又保沼井のバス停留所に
ある。

二ノシカの食害を
枯れた木々が
多い。

ササ原の中に無数の
鹿道が走っている。



遠望も美しい白髪山
香南市西北町と物部市向かって行く
正面に裾野を広げた三角形の
山容の白髪山が見えてくる。
雪を冠った冬季には高知や
南国方面からも遠望できる。
特に南国平野の裾の内から
見える姿はまるで富士山の
ように美しい。



窪地
の無水

上葦生と植山の
分水嶺となる稜線

ウラジロモミヤ
タケカンバの樹林

3845.1

至別府

雪を冠ると遠くの山が
大きく見えるから不思議

奥物部の森林開発

河川の流況により伐採・搬出する
方法を開発が行われていた。
20世紀初頭から開発が本格化
する。
大正初期には大板から川口にか
けて森林鉄道が建設され、
その後順次奥地に延び、
昭和7年に別府入口まで完成。
別府市の奥深くまで森林鉄道
が完成するのは6、7年を要し
一層開発規模が拡大する。
加えて戦後の高度経済成長
下での大規模な奥地開発に
よって自然林、原生林は
大幅に減少し、おろくに尾根筋に
残っている。

風が吹くとササの葉は
白く銀色に光りながら
サササと音を立て鳴る。

足元から広がるササ原

鳥虫けもの草木花
春夏秋冬連れていっ
四季折々に美しい

みやびの丘と白髪池は
ほぼ自平の標高に
位置している

ふると林道の
まわりは深い
ブナ天然林

山頂から北半分は西熊山を
中心とした美しい山容と
深い原生的な景観が広がる
南側には磐定山尾根筋の
天然林を除くとほとんどが
スギヒヤの人工林が広がる。
遠くは御在所山など幾重
にも山並みが重なり
高知平野や土佐湾がうつ
見える。

白髪山の灯台
(1.559m)
みやびの丘
おたやかの丘

倉山～次郎渡～
石立山など眺望
山頂に東屋
みやびの丘は、種子皇后の
御成婚に由来する。1993

鹿の食害の白髪

ササ原広がる
森林限界
抜ける

ササ原の中に
岩が点在している

ふとこいの
木段道

白髪山登山口

① 広場

② 広場

ラス巻やネットで
シカから樹木を
守っている

眼下に広がる原生林と
三嶺～倉山系の連山一望
巨大な岩壁
北のテラス
白髪山
(1,770m)

南斜面のササの
スロープがとても
美しい

池の畔にはササが深く
道もないので注意

池の畔には鹿の目の
ように鹿道が通っている。
動物たちが生命をつな
いでいる水場だ。

白髪山頂の前方にある巨大な
岩壁「北のテラス」からは眼下
に広がる原生林や三嶺～
倉山～大板～倉山系の連山を
一望できる。

